



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

歯の手入れは何のため？よく噛めることと健康の関係

歯周病科 科長 山本 松男

4月半ばに、熊本県、大分県では断層型地震が多発し、現在も関連すると思われる地震が続いています。被災された方、親族をはじめお知り合いのある方には大変おつらい状況が続いていると存じます。深くお見舞い申し上げます。水道が止まってしまうと、歯磨き＝口腔清掃が十分にできずに、誤嚥性肺炎が生じやすいといわれています。炎症を起こす細菌が直接肺に入ってしまうのが原因です。疲労も蓄積して抵抗力が低下しているなどの状況が考えられます。どうぞ口腔ケアには気をつけてお過ごしください。

今回は、日常的な歯の手入れ、噛めるということと栄養摂取への影響、生活の質QOL(Quority of life)との関わりについて触れてみたいと思います。QOLに影響を与えるとは、具体的には、糖尿病、心臓血管疾患、脳血管疾患、それらに関連する肥満、脂質異常症、高血圧などの病気になりやすいかどうか、重症化に影響を与えるかどうかということです。歯周病やう蝕はそれらの病気の原因ではありません。しかし、それらの病気の重症化などに荷担する可能性が指摘されており、例えば歯周病は糖尿病の重症化を促進する危険因子(＝リスクファクター)であろうとして多くの研究が行われています。

手入れが悪く歯周病やう蝕になれば歯を失うこととなりますが、その結果として「ものがよく噛めない」ということとなります。よく噛めなければ栄養摂取が十分ではなく、特に高齢の方では慢性の疾患(心臓血管疾患、脳血管疾患、それらに関連する肥満、脂質異常症、高血圧、糖尿病など)の重症化に悪い影響を与えるという調査の結

果が報告されるようになってきました。よく噛めないことが慢性疾患につながる理由としては、食物繊維の摂取が少なく穀物エネルギーの摂取が多いこと、野菜や繊維性食材の摂取が減ることでビタミンB6、C、E、ベータカロチン等の必須ビタミンが不足気味になる等のことが考えられています。

小魚からはDHAなどの不飽和脂肪酸の摂取が可能です。指摘されているビタミン類や不飽和脂肪酸は、体が正常に機能する時に必要になるだけでなく、活性酸素を押さえて免疫機能を高めるなど炎症をおさえ病気を進行させにくくする働きが知られています。毎日の食事の中で摂取する栄養素が少しずつ不足しがちであることが咀嚼能力に関連しているのであれば、歯の手入れをおろそかにする訳にはいきません。

日本では「医食同源」と言われるようにおいしくバランスのとれた食事と病気の予防や治療の関係が広く認識されるようになりましたが、現在は、いろいろな食品を食べられるかどうかが目されるようになってきました。

しかし、心配しないでください。歯を失わないように日々の口腔の手入れに気を遣っていただくことが大切ですが、ご自身の歯を失った場合でも義歯や歯科インプラントによりしっかりと噛むことができれば大丈夫だと考えられています。健康のための生活基盤として、歯や口腔への関心を持ち続けてください。



歯周病科 紹介

歯周病は、お口の中のある種の細菌群(歯周病原性細菌)が骨を含めた歯を支える組織(歯周組織)に引き起こす慢性の感染症(炎症)で、時間の経過とともに歯周組織が破壊され、歯がぐらぐらになって噛む機能が低下する病気です。また近年、歯周病は糖尿病など全身疾患に悪影響を及ぼすことがわかってきました。

【歯周治療の流れ】

歯周病は、むし歯、噛み合わせや歯並び、遺伝、生活習慣、全身疾患など様々な要因によって重症化していきます。そこで、歯周病科では一口腔単位で歯周病の治療を含めた包括的な歯科治療を行っています。そのため、まず全体的なお口の検査(歯ぐきの状態、あごの骨の状態、かみ合わせの状態など)や全身的な状態(喫煙、日常の習慣、医科的疾患など)の検査を行います。そして、その結果をもとに個人個人にあわせた治療計画を立て、予防・治療を行っています。

【先進医療について】

一度失った歯周組織は元の状態には戻りません。当科では歯周組織を再生させるための外科処置として歯周組織再生誘導法(GTR法)とエムドゲイン®によるバイオ・リジェネレーション法を行っています。バイオ・リジェネレーション法は厚生労働省より先進医療の実施承認を得たため、患者さんへの経済的な負担を軽減する形で提供できるようになりました。ただし、すべての患者さんにできるものではありませんので、詳細につきましては担当医にお尋ねください。

【歯周病の予防・治療において最も大切なこと】

歯周病の最大の原因である細菌は、歯の表面にバイオフィルムという細菌塊を形成して付着しています。このバイオフィルムは抗菌薬などの薬の浸透を妨げるので、これを除去する最も効果的な方法は機械的に壊すこと、すなわち毎日のブラッシング(歯ブラシなどによる清掃)です。これが上

手くいかないと歯石をとってもバイオ・リジェネレーション法など外科的処置をしても、再発のリスクが高く歯周治療が奏功しません。そのため、治療は効率的なブラッシング方法を習得することから始まります。日常の習慣を変えることは大変なことです。長くお口の健康を保つことは全身の健康につながります。ぜひ効率の良いブラッシング方法を身につけていただきたいと思います。

【臨床研究(治験・臨床試験)への取り組み】

より安全で効果の高い歯周病予防・歯周治療方法の開発には、患者さんにご協力をいただきながら行う臨床研究が欠かせません。当科では将来的に患者さんの利益につながり、また安全性が高いと判断した臨床研究(治験・臨床試験)を行っています。もちろん、患者さんの同意を得ることなしに行うことは決してありません。最近では、多くの患者さんのご協力のもと、「新しい歯周組織再生材料の臨床応用」、「歯肉溝滲出液中の歯周病バイオマーカーの開発」などの治験などを行いました。現在では「歯周治療における禁煙の効果」についての臨床研究を行っています。これらの研究の成果は今すぐ臨床応用へと向かうものではありませんが、将来、国民の健康増進のために役立つものと考えています。

歯周病科 准教授 須田 玲子



歯周病科 スタッフ

お口の健康センター 紹介

超高齢社会に突入した今、健康寿命を延ばすことが大きな課題となり、食べること話すことを司る口腔が健康である必要があります。従来から、口腔内の疾病予防に力を入れリスクの軽減を続けております。しかし、お口の環境は年齢、嗜好品など様々な要因によって随時変化していきます。そこで私たちは、患者さんのニーズにあわせた口腔内の検査をすることでお口の環境を科学的根拠に基いて把握し、個人にあった「管理」を継続して行うことを提案しております。現在、美容歯科では「口元からより美しく、より健康に」をスローガンにお口の健康センターを設立し、常時2名の歯科衛生士を配属させております。

対象患者さんは、原則歯科治療が終了した方、定期検診を希望されている方、自費治療(矯正治療・インプラント治療・ホワイトニング治療)を行っているまたは終了した方です。

管理内容は、患者さんのお口の状態を、歯周病リスク・唾液の性状・細菌数・口臭・歯の色など個人にあった検査を行い、その結果をもとに管理プランを提案します。検査結果は患者さんにお渡しし継続して受けていただくことで経時的にご自身の健康状態を把握することができます。管理プランは、専門機材による歯面清掃・ステイン除去・オーラルエステ・ホワイトニングとなっております。治療が終了した後、現在の状態を維持しさらにより健康な状態にするための口腔管理を目指して取り組んでおります。

4月から新たに取り入れたオーラルエステは、ホワイトニングなど長時間お口を開ける処置によって起こる唇のしわや乾燥、荒れといった口腔周囲の問題に対し審美改善を目的としております。化粧品会社と提携し、保湿クリームを用いてマッサージの施術を行います。通常のエステとは違い歯科専門だからこそ行うことのできる口腔皮膚のマッサージですのでリラックスして受けていただけます。

お気軽にお尋ねください。

お口の健康センターは歯科医師の指導のもと歯科衛生士が行っております。すべて自費診療となります。

お口の健康センター センター長 真鍋 厚史



歯科衛生士によるオーラルエステ



口臭検査を行っているところです



細菌数測定装置です



お口の健康センタースタッフ

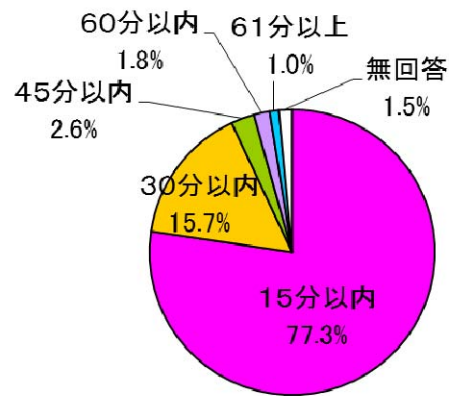
患者満足度アンケート集計結果報告

患者満足度調査を、平成28年2月6日(土)～10日(水)の4日間に於いて行いました。アンケート回収枚数1,937枚のご回答を頂きました。

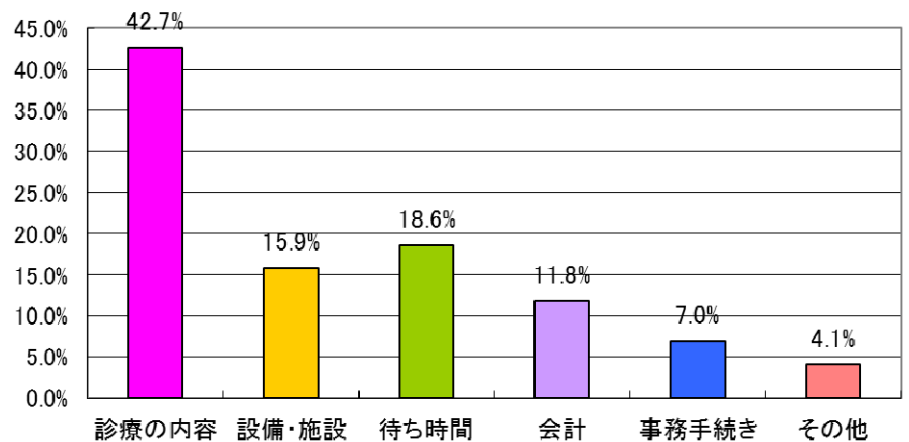
貴重なご意見を基に、患者さんがより快適に診療出来る病院を目指し日々努力して参ります。調査に、ご協力頂き誠に有難うございました。

事務課

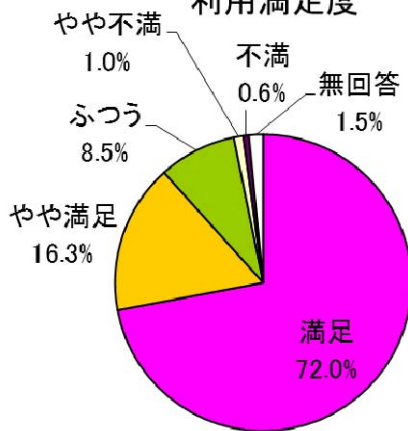
待ち時間について



満足だった点



利用満足度



間違い電話に関して

ここ最近、おかけ間違いの電話が大変多くなっております。

いま一度、電話番号をご確認の上おかけください。

事務課

昭和大学歯科病院 電話番号

いちいちごいち

03-3787-1151 (代表)

編集後記

リオオリンピックまで50日を切りました。日本選手には是非頑張ってもらい、メダルを勝ち取り、遠くブラジルの地から感動と勇気を送って欲しいものです。さてブラジルといえば、代表的料理の一つが大きめの串焼きの肉を食べまくるシュラスコで、これを食べるには健康な歯とあごの力、噛み合わせの能力が必要です。歯科病院は健康な噛み合わせの能力を一人でも多くの患者さんに提供すべく鋭意努力しています。でも皆様、とくに年配の皆様、代謝が落ちてからの食べ過ぎにはご注意ください。かくいう私も柔道三段でオリンピックを夢見たこともありましたが、今では立派な三段腹となり。。。失礼しました。。

(K.T)